

障がい者チャレンジトレーニング（職場短期実習）事業 好事例

（支援機関）障がい者就業・生活支援センター

1. 本人プロフィール			
障がい種類・程度	精神・（2級）		

2. 職場情報	
業種	サービス業

3. チャレンジトレーニングの実施			
日数	10日間	勤務時間	6時間／日
実習内容	館内外の清掃、受付業務		
支援機関による 職場への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は不特定多数の接客対応となる受付業務を80%、清掃業務を20%という割合で実習を進めていたが、自分の思いを他者に伝えることが苦手ということが分かったため、実習4日目から受付業務20%、清掃業務80%の業務割合で実施することとなった。 		
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・職場の担当者が不在の際でも本人から職場に報告ができるように、社内共有の本人専用の連絡ノートを活用し、職場全体で本人の様子等を情報共有した。（例えば清掃で鍵のぐらつきを発見したため修理が必要など） ・また、作業中に質問することが難しい様子だったので、毎日実習の終わりに些細なことでもノートに書いてもらい、本人の不安を取り除く体制を整備した。 ・連絡ノートを通じて、特に頑張ったところ見つけて褒めることで本人の仕事に対するモチベーションが上がり、意欲的に業務ができるようになった。 		

4. 就職後の様子	
仕事内容	館内外の清掃、受付業務
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジトレーニングの最終時点と同じ業務割合で働いている。 ・引き続き、社内連絡ノートを活用して本人の様子を把握し、企業内で情報共有している。 ・また、社内連絡ノートを通じて会社の意見等を本人に伝えるようにしている。
支援機関による 就職後の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の様子や課題の確認のため、雇用当初は週に1回程度の職場訪問を行っている。また、就職2ヶ月後から、月1回程度の職場訪問に変更した。 ・自分自身の接客対応の仕方ではなかったか心配な時や、休憩の際、本人は決められた時間に休憩を取っているが、他の方が忙しく作業をしているため、手伝わなくて良いのか等の相談があった場合には訪問するようにしている。
チャレンジ トレーニング後の 職場の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジトレーニングを通じて、現場職員の障がいに対する不安が解消できた。 ・業務の切出しが困難と思われる方でも、支援機関と相談しながらチャレンジトレーニングを実施したことで、本人に適した業務の切出しをすることができた。